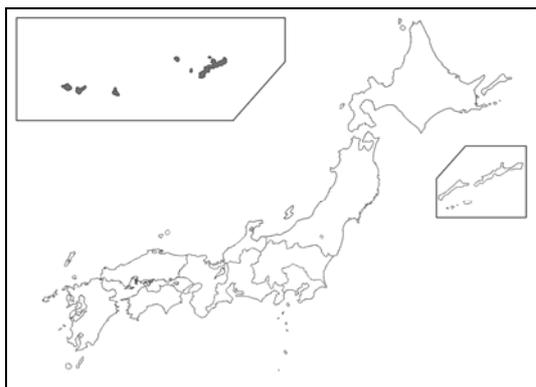


(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は基調として着実に回復しているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱めの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年2月)	今回(平成26年5月)	
景況判断	着実に回復	基調として着実に回復しているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる	
個人消費	堅調に増加	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱めの動きがみられる	

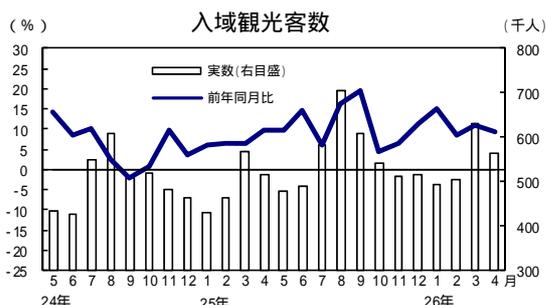
1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客については、1月は年末から年始にかけての航空便提供座席の増加に加え、下旬の旅行会社主催のイベントの誘客効果もあったことから、前年実績を上回った。2月は上旬・中旬に大雪に伴う航空便欠航により、一部方面で入込が落ち込んだが、下旬には回復し前年を上回った。3月は春休みシーズンによる旅行需要の増大や、各種イベントによる誘客、拡充したLCCや離島路線の好調により前年を上回った。4月は新規路線により主要方面以外からの入込も増加し、前年を上回った。

外国客については、1月は春節を迎えた台湾、香港、中国の主要方面からの旅行需要が高かったことから、前年を上回った。2月はチャーター便や臨時便が増加したことにより前年を上回った。3月は航空路線の拡充やクルーズ船の寄港などにより前年を上回った。4月も引続き、航空路線の拡充により前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年同期を上回っている。



入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

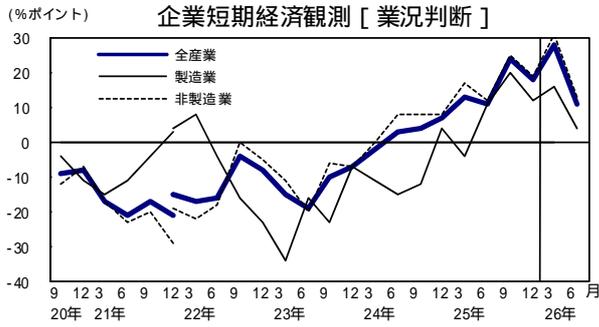
	25年7-9月	10-12月	26年1月-3月	26年4月
入域観光客数	1,897	1,572	1,628	566
(前年比)	13.9	7.2	11.4	9.5
ホテル稼働率	84.3	70.4	79.0	-
(前年差)	8.4	3.7	3.2	-

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

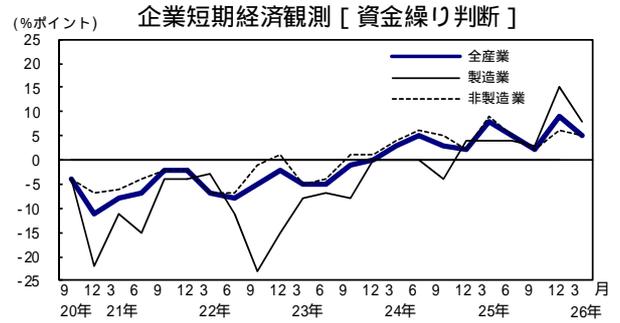
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

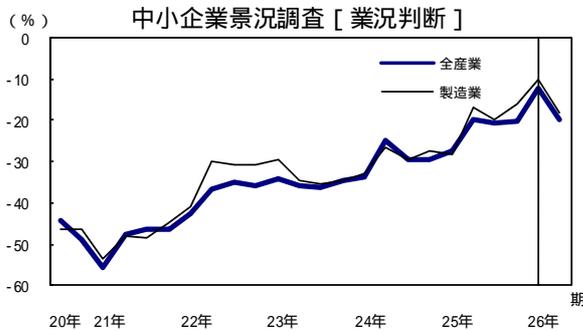
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年6月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

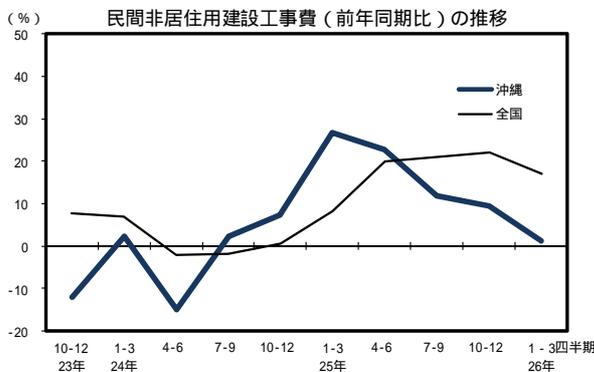


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「観光客のレンタカー利用が好調に推移している。今年に入ってから台湾、韓国、香港等からの外国人観光客のレンタカー利用が増えている(その他のサービス[レンタカー])」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	25年度実績見込み	26年度見通
全産業	39.7(7.2)	14.3
製造業	150.3(4.1)	1.3
非製造業	22.1(10.3)	19.4

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱めの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比3.9%減、2月は同1.7%増、3月は同9.4%増となった。

百貨店販売額、スーパー売上高

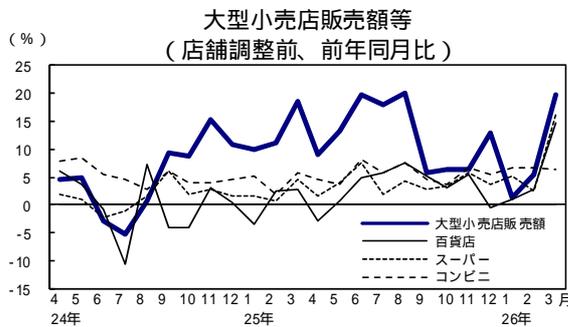
百貨店は、1月、2月は物産展の催事効果等により食料品が好調であったこと等により、前年を上回った。3月は消費税増税前の駆け込み需要などで、婦人服や呉服が好調であったこと等により、前年を上回った。

スーパーは、食料品や日用品に加え住居関連についても好調に推移したこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

沖縄地域の家計動向関連DIは、41.7となり前月より18.9ポイント低下した。

「稼働率において3か月前と同様に前年同月実績を下回る見込みである。ゴールデンウィークの動きも、日並びの関係もあり、例年より稼働率が低い状況である(観光型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が増加した。

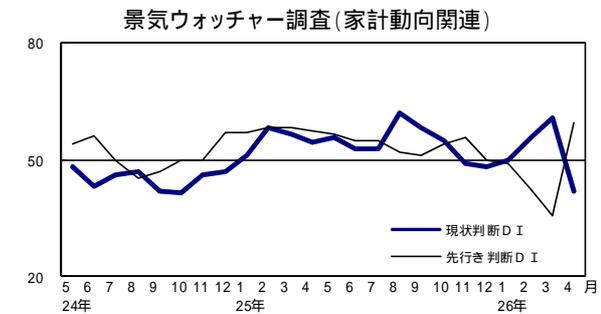
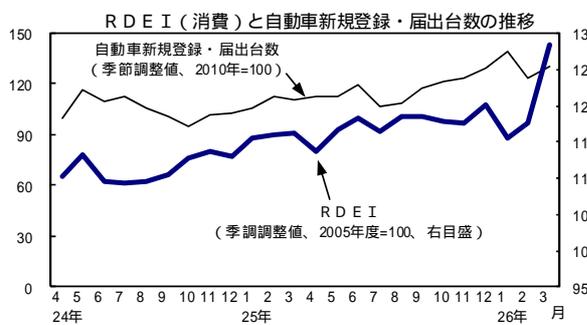


	26年1-3月	26年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.7	3.9	1.7	9.4
大型小売店(*2)	8.9	1.2	5.6	19.8
百貨店(*2)	6.4	0.9	2.8	14.7
スーパー(*2)	8.1	5.2	2.4	16.1
コンビニ(*2)	6.6	6.7	6.6	6.5
乗用車(*3)	19.9	33.6	11.0	18.9
(季節調整値)(*3)	5.3	7.6	11.1	5.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 大型小売店は経済産業省調べ(店舗調整前)、百貨店、スーパー、コンビニは日本銀行別荘支店調べ(百貨店以外は全店) 前年同期(月)比 (%)

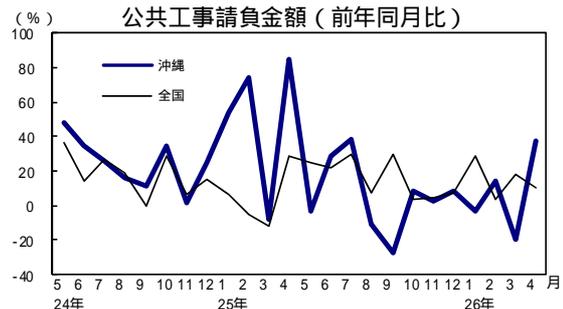
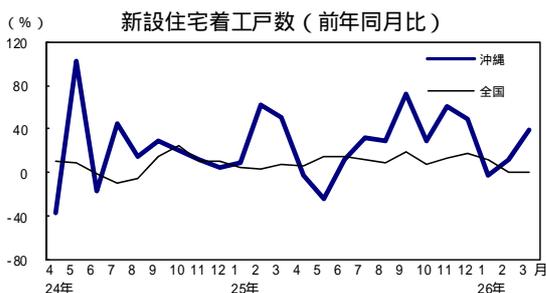
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

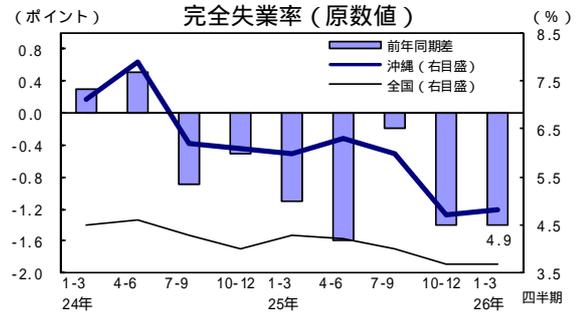
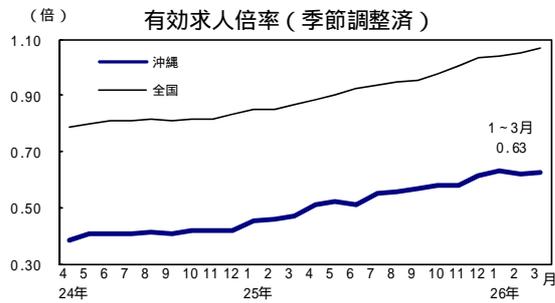


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

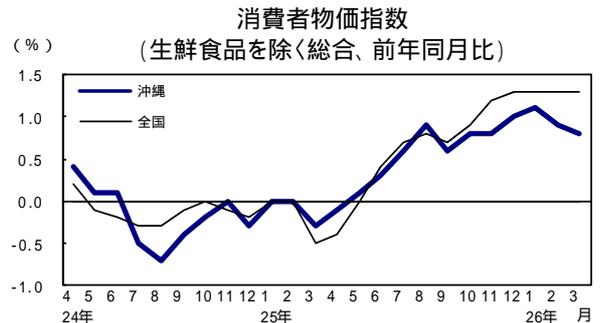
「企業の求人は、堅調である。県内企業においてもパート、派遣社員から直接雇用への動きが少し見えてきている(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年4-6月	7-9月	10-12月	26年1-3月	26年4月
倒産件数	23	26	14	18	3
(前年比)	43.8	36.8	17.6	12.5	70.0
負債総額	52	26	87	21	13
(前年比)	186.2	1.5	275.2	90.5	60.1



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・3月までのキャンペーンが終了したこともあり、4月に入り来客数が極端に減った。毎月の料金を下げるため、プラン内容を見直す客の来店は増えている。消費税増税もあり、支出を減らそうとしている傾向がうかがえる(通信会社)

<先行き>

- ・4月も来客数は前年を超えており、2~3か月は来客数増加を見込んでいる(コンビニ)

